

小学校・交通環境学習における留意点

～大阪府・和泉市内2小学校の事例より～



清水彰（㈱まち創生研究所）/酒井弘（㈱まち創生研究所）
山口喜久治（近畿地方環境事務所環境対策課）/稲垣学（和泉市都市デザイン部道路河川課）
松村暢彦（大阪大学大学院工学研究科）

●背景

- ・和泉市では平成14年度より毎年継続して『交通・環境学習』を実施。
- ・平成20年度には小学校での取り組みを推進及び広報するためのツールとして『小学校の【交通・環境学習】教材事例集』を作成。

●目的

- ・平成21年度に取り組んだ『交通・環境学習』（右表）の実践事例を、児童の生の声や保護者の反応を中心に報告する。

実施校 クラス	鶴山台南小学校 5年生(2クラス71名)	伯太小学校 5年生(3クラス82名)
教材名	・クルマ大集合 ・地球温暖化実験 ・買い物ゲーム	・クルマ大集合 ・地球温暖化実験 ・私たちの校区の空気を調べよう

担任教諭から受けた3つのアドバイスと実践

手を動かすこと



●担任教諭「パソコンやインターネットの普及で調べ物をプリントアウトするだけで記憶に定着しない」

●実践
スクリーン上で温暖化の仕組みを説明した直後に、記憶している言葉を、穴埋め形式のプリントに埋めていった。

身近であること



●担任教諭「ヒマラヤの氷河や死滅するサンゴ礁の写真や映像では児童に実感として伝わりにくい」

●実践
児童の興味や関心を喚起するため昆虫(蚊やクモ)や食べ物(ミカンやリンゴ)の写真を採用した。

五感を刺激すること



●担任教諭「具体物があることで、児童の五感を刺激することが記憶の定着には効果的」

●実践
ミカンの浮皮症の説明後、実際にミカンを手渡し、中身を確認した。

効果：児童の声と保護者の反応

クルマ大集合

- 児) 燃料電池車は静かやったし、ほとんど揺れなかった。
- 保) 燃料電池車に乗りたかった。
- 児) 燃料電池車が1億円すること。
- 保) 燃料電池車は値段が高すぎる。
- 保) 次に買うときはエコカーにしよう。
- 児) 排気ガス調べて靴下が真っ黒になったこと。
- 保) えへ～そうなん。もっとクルマのことで調べてみたら。



地球温暖化実験

- 児) CO₂が多くなると、暑くなること。
- 保) クルマはCO₂がたくさん出るから、控えなあかんね。
- 児) 近いところはクルマじゃなくて自転車に乗ったらええねんて。
- 保) できるだけクルマ乗らんようにするけど、奈良とか行く時は、クルマ使うで。
- 児) セアカゴケグモやミカンの浮皮症って温暖化が原因らしいで。
- 保) お母さんも勉強したいわ。



買い物ゲーム

- 児) 1970年頃は、大阪の近くに生産地が集まっていた。
- 保) そうなん。お母さん知らなかったわ。
- 児) 買い物ゲームでちらし寿司を作った。
- 保) なんてちらし寿司なん？楽しかったんやね。
- 児) 買い物する時は、徒歩や自転車、バスなどを使った方が環境にいいねんて。
- 保) これからなるべくそうするわ。



空気調べ

- 児) 家の近くが一番汚かった。
- 保) クルマがよく通るからな。
- 児) 外にある空気はいい空気だけじゃない。
- 保) 忘れたらあかんて。
- 児) ボンズの近くを調べたけど、結果は意外にきれいだったよ。
- 保) あそこはよくクルマ通るのになあ。

